

福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 12 月 12 日
東京電力株式会社

<タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

- ・6/17 20:00 放射性物質除去装置の本格運転を開始。
- ・6/24 12:00 淡水化装置(逆浸透膜型)における処理を開始。
- ・6/27 16:20 循環注水冷却を開始。
- ・8/7 16:11 蒸発濃縮装置の本格運用を開始。
- ・8/19 19:33 第二セシウム吸着装置(B系ライン)を起動し、セシウム吸着装置および除染装置との並列運転によるたまり水の処理を開始。19:41 定常流量に到達。
- ・12/11 15:48 淡水化装置(蒸発濃縮装置)2が設置されているハウスの堰内に水が溜まっていることを確認。漏えい量は約5リットルで堰内に収まっており、漏えい箇所は蒸発濃縮装置2Bのシール水タンクのベント配管であることを確認。今後、原因調査を実施予定。なお、漏れ出た水の水源はろ過水であり、堰内に漏れ出た水の表面線量率は、ガンマ線が0.12mSv/h、ベータ線が1mSv/h未満であり、周辺の雰囲気線量と同等。また、淡水化装置(逆浸透膜型)2-1および2-2が継続運転中であり、淡水化した水は十分にあることから、原子炉注水への影響はなし。
- 12/12 11:00 頃 同箇所よりホース内の残水がにじみ出していることを確認。(漏えい量は3秒に1滴程度)
その後、シール水タンクおよびホース内の水抜きを実施。
- 15:00 頃 にじみが止まっていることを確認。

[貯蔵設備]

- ・6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
1号機	・1号機タービン建屋 2号機タービン建屋	・12/10 14:00 ~ 12/12 9:22 移送実施
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・11/30 18:03 ~ 移送実施中
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋]	・11/15 9:25 ~ 12/5 10:31
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・12/12 10:00 ~ 16:00 移送実施

移送先	移送先の水位状況 (12/12 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 1,717 mm(水位上昇累計: 2,934 mm) 12/11 7:00 から 108 mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 1,069 mm(水位上昇累計: 1,795 mm) 12/11 7:00 から 39 mm 下降

トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (12/12 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. < + 850mm (12/11 7:00 と同じ)	O.P.+ 3,105 mm (12/11 7:00 から 353 mm 下降)	O.P.+ 3,935 mm (12/11 7:00 から 29 mm 上昇)
2号機	O.P.+ 2,818 mm (12/11 7:00 から 18 mm 上昇)	O.P.+ 2,836 mm (12/11 7:00 から 15 mm 上昇)	O.P.+ 2,959 mm (12/11 7:00 から 12 mm 上昇)
3号機	O.P.+ 3,303 mm (12/11 7:00 から 18 mm 上昇)	O.P.+ 3,072 mm (12/11 7:00 から 20 mm 上昇)	O.P.+ 3,300 mm (12/11 7:00 から 20 mm 上昇)
4号機	-	O.P.+ 3,060 mm (12/11 7:00 から 20 mm 上昇)	O.P.+ 3,069 mm (12/11 7:00 から 17 mm 上昇)

<放射性物質のモニタリング>

海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約30m	12/11	8:30	ND	0.04	0.04
福島第一 1~4号機放水口南側約330m	12/11	8:10	ND	0.04	0.03
福島第二 1,2号機放水口南側約7km	12/11	7:40	ND	0.03	0.02
福島第一敷地沖合15km(下層)	12/10	9:00	ND	0.01	ND

・その他、福島第一原子力発電所沿岸 1 地点(12/11 採取分)、沖合6地点(12/10 採取分)、宮城県沖合 6 地点(12/7 採取分)における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)は全てND。

<使用済燃料プールの冷却> (12/12 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	停止中	13.5
2号機	循環冷却システム	運転中	22.9
3号機	循環冷却システム	運転中	14.6
4号機	循環冷却システム	運転中	22

[1号機]・12/11 22:20 所内電源切替工事に伴い、使用済燃料プール代替冷却システムを停止。(停止時プール水温度:14)

[2号機]・12/10 11:37 使用済燃料プール代替冷却システムを再起動。

[4号機]・11/29 ~ 使用済燃料プールの塩分除去のため、イオン交換装置の運転を開始。

<原子炉压力容器への注水・原子炉の状況> (12/12 11:00 時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約4.4m ³ /h, 炉心スプレイ系:約1.9 m ³ /h)	40.1	40.8	110.7 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約2.7m ³ /h, 炉心スプレイ系:約6.1 m ³ /h)	66.8	71.8	110 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約2.8 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約6.0 m ³ /h)	58.2	65.1	101.6 kPaabs

[1号機]・12/12 10:38 所内電源切替作業に伴い、原子炉格納容器ガス管理システムA系(停止中)の電源を停止したところ、同システムB系(試験運転中)のモニター電源が停止。

11:30 現場を確認したところ、同ガス管理システムB系が停止していることを確認。その後、同システム(B系)の制御電源が同システム(A系)より受電していることが判明したため、制御電源の切り替えを実施。

12:00 同システムB系の再起動を実施し、正常に運転していることから、停止原因は、同システム(A系)の電源停止作業によるものと推定。

原子炉注水、窒素封入設備などに問題はないため、原子炉への影響はなし。

[4号機][5号機][6号機]特に変化なし

<その他>

・10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5,6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。